

情報Ⅰ シラバス

(1年 普通科・染織科)

授業担当者	
金城 比呂子	小高 政彦

1. 「情報Ⅰ」の必修・選択について

・普通科、染織科 1年・・・必修（2単位）

2. これからの「情報教育」

インターネットや携帯電話が、わずか数年の間でこれほどまでに飛躍した要因は、誰もが利用できる簡易性、情報の豊かさ、日々移り変わる新鮮さ、スピーディーに取得できる利便性、コストの低価格化などが挙げられ、これらが相まって普及したと考えられる。

しかし、「情報」を得ることのみで人間の生活や心を豊かにすることはできない。「情報」を受け手がどのように判断するか、また送り手も何のために送るのかと言った知恵を持たなければならない。気をつけなければならないのは、情報に左右され、自分を見失わないことである。いまや情報なしで生活できない状況にまで社会は変貌している。自分を忘れ、情報に頼りきった生き方をするのではなく、情報社会からいろいろな情報を取得でき、得られた情報を吟味し、有効に活用すると共に情報社会を構成する一員として健全な情報社会を形成していくことが必要とされる。

3. 「情報Ⅰ」を学ぶにあたっての留意点

情報化の進展に伴い、情報化の「影」の部分が顕在化している。情報化の「影」の部分についての正しい理解と対処法を身につけることは、情報社会に生きるすべての人間にとって必要である。情報社会についての正しい認識と健全な社会形成に向けての知識・技能を身につけるようにしなければならない。

科目	情報 I	単位	2	対象	普通科の 1 年生
目 標	<p>共通教科情報科の目標は「情報及び情報技術を活用するための知識と技術を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる」ことである。この目標達成のためには「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「社会における情報技術の役割や影響の理解」「情報社会に主体的に対応できる能力と態度」の観点相互に関連させながら、情報化した社会の構成員として必須の素養である情報活用能力を育成することである。</p>				
<p>○学習内容・他の科目との関連</p> <p>コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用する実習を多く取り入れることにより、基本的な技能の育成を図り、「情報活用の実践力」を高める。さらに活用の具体例を通して、帰納的に「情報の科学的な理解」を育成し、体験的に「社会における情報技術の役割や影響の理解」「情報社会に主体的に対応できる能力と態度」を育成する。このことにより、科目の目標である「コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得させる」の達成を図る。</p> <p>教科「情報」は基礎科目としての特性があり、また教科目標の範囲は広い。教科「情報」で育成された情報活用能力は他の教科の学習に大いに生かすことができる。また、他の教科の学習においても情報活用能力は育成される。教科「情報」と各教科・科目、特別活動及び「総合的な学習の時間」との連携した授業の展開により、より効果的な情報の目標達成が期待できる。</p>					
<p>○学習のワンポイント・アドバイス</p> <p>生徒個人の興味・関心のある題材を導入して、動機付けに活用したり、実習に取り込んで問題解決を促したり、生徒個人の現在の実態に対応した教材を配置して、授業を展開していく。よって、情報機器の操作等における個人差は気にせず、主体的に授業に参加し、学習意欲を高めて欲しい。</p>					
<p>評価の方法</p> <p>次の（１）～（３）を総合的に判断して評価する。</p> <p>（１） 定期テスト、実技テスト</p> <p>（２） 課題レポート。</p> <p>（３） 日々の授業態度（授業に意欲的に参加し、実習・演習など率先して取り組んでいるか等）</p>					
<p>使用する教科書、教材等</p> <p>（１） 教科書（日本文教 情報 I）</p> <p>（２） 補助教材（実教出版 30 時間でマスター Office2019）</p>					
<p>進路との関わり</p> <p>（１） 社会生活においては、ワープロ、表計算、プレゼンテーション等の機器操作は必要不可欠である。基本操作を身につけ、表現力を高めよう。</p> <p>（２） インターネットなどを活用した情報活用も頻繁に多くの人が利用している。その反面いろいろな問題や課題が発生している。情報社会の構成員としての責任とスキルを身につけよう。</p>					